

表彰式における審査委員の講評を誌面の都合上要約してご紹介します。

仙田 満

東京工業大学教授

作品例部門の金賞は、人工地盤上の都市広場に円形のガラスブロックを用い、1階の商業施設に昼は自然光を落とし、夜は1階からのほのかな光の海を演出している。デザイン密度はきわめて高く、審査員全員が一致して推した。銀賞はネオバリエを素材に、美しくカーブした壁面を構成して、その透明性が評価を得た。銅賞ではガラスブロックによる美しい階段が特徴的であった。垂直型の真空ソーラーシステムを使用し、新しい立面構成を提案した作品など、佳作五点もそれぞれの素材の特色を生かしたものといえる。

提案部門では若々しいアイデアが新鮮であった。金賞は、太陽熱と応答して変化するガラスをテーマとしていることが共感を呼んだ。高いレベルのコンペティションであったと思う。

小嶋 一浩

東京理科大学助教授

21世紀の建築はこうなっていくのではないかと想像させてくれる提案が多かったことは、審査員として幸せだった。提案部門の金賞は、大変美しい案であると同時に、ガラスの物質としての存在感をうまく消失させて、空間の印象だけが残るようなプレゼンテーションができていた。このほかの入賞・佳作作品も、だんだん染み付いてくる「建築というのはこんなもの」という気分を払拭してくれるような新鮮な案が揃っていた。ガラスブロックのような素材は、魅力的な建材ではあるが「意味」が付着しているという印象があり、従来の使われ方を超えて新しい解釈を示すことが難しいと思っていたのだが、なるほどこう使えばいいんだと素直に感動させてくれる作品が集まっていたのも非常に成果だった。

横河 健

横河設計工房代表

提案部門は、かなり密度が高く、想像以上に高レベルだった。金賞作品は詩的で、シンプルな形で複雑なことを表現しているあたり、やられたなという感じではほぼ全員一致の評価になったと思う。銀賞は、アトリウムという巨大なものを想像するのに反して、非常にプライベートなアイデアで、楽しく拝見した。銅賞については、リアリティの高いものを地道に美しく表現している点を評価すべきと考えた。作品例部門の入賞作品は、金賞の床面すべてが輝く「けやきひろば」を始め、美しいものが多く、公共建築など機会を見て訪れたいと思われた。いずれにしろ、このようなコンペには実力がこもった作品が出てくるのだと改めて意を強くした次第である。

今回も多数のご応募をいただき、主催者の一員として厚く御礼申し上げます。提案部門では、太陽熱や植物との共生への関心の高さが印象に残っております。作品例部門の金賞は、ガラスブロックからの柔らかな光を生かし、景観に優れた、今後のライトアップの方向を示していたいただいたものとして、高く評価をさせていただいております。銀賞では、ネオバリエの壁面から流れ落ちる滝がみごとに演出されており、ネオバリエの新しい使用法を引き出していただいきっかけになるのではと期待しております。また、今回より加わった真空式ソーラーシステムの使用作品が佳作に入り、このシステムが機能面ばかりでなくデザイン面でも十分受け入れていただけるものであると、大変心強く思った次第です。



戸谷文隆
日本電気硝子 常務取締役